

『ザ・インタープリター』 原題: The Interpreter 2005



.© 2005 Paramount Pictures/UIP

映画批評

『ザ・インタープリター』 原題: The Interpreter 2005

～アフリカ抵抗運動指導者の独裁化を阻止を国連で。

塚田三千代 (翻訳家・映画アナリスト)

© m.tsukada

シルヴィアはアフリカ系言語を話す国連通訳者。言葉を信じ、通訳外交に専念して5年になる。ある日、誰もいない通訳室で、“The Teacher will never leave this room alive.”というささやき声を耳にしたことが発端となって、国連本部に警護体制がしかれる。

”...the last thing we need is to have a foreign leader popped here.“

(外国の元首が国連で暗殺されることがあってはならない)

“So States wants you to know NSA, CIA, FBI, whatever you need to keep this maniac alive until he leaves...”(国務省の指令で NSA, CIA, FBI に、万全をつくしてマトボ大統領のズワーニが国外へ出るまで警護せよ) という指示がでる。

妻の喪に服すケラー捜査官も招集される。彼は最初に国連通訳者であり通報者であるシルヴィアを疑う。初対面で、「私を守ってくれる人と交代して欲しい」と言うシルヴィアに、「僕は要

人を守る人間。だから君を調べるのは職務」と冷やかに答える。核心をつく質問になると、シルヴィアが話をうまくそらせてしまう。2人はまるで川の対岸に立っているだけで解決の糸口はなにひとつ見つからない。

じつは、シルヴィアには隠し事があった。アフリカに住んで抵抗運動に加わっている兄のことである。兄の安否を気遣うあまりに N.Y で亡命中の抵抗運動指導者クマン・クマンに会うが、その直後に、バス爆破事件が起こる。彼女は間一髪で死を逃れたが、同乗していたクマン・クマンや、尾行中のケラーの部下は命を落とす。そしてアフリカ系容疑者の殺害。フランスの国際的カメラマンの死。次にシルヴィアの命が狙われる。だが、その直前に彼女は失踪する。

マトボ共和国大統領の国連で演説する金曜日がついにやってくる。ズワーニ大統領の目的はなにか？ 国連加盟 191 カ国の前でわざわざ暗殺をたくらむのは誰か？ なぜそのようなことを？ 遙かなるアフリカへの想いは…？ 疑惑の渦中のシルヴィアは？

Is Silvia a victim? A suspect? Or something else completely?

ケラーはつぎつぎに続く事件の「謎解き」を沈着冷徹に考えるのだが…。疑惑と真実の渦巻くサスペンスが多言語の飛び交う国連総会を背景に浮かび上がってくる。

国連シーンは国連史上初のニューヨーク本部での撮影が許可された。

同時通訳者のブース、迷路のような回路、国連総会室、空中から撮影した国連の全景と周辺、じつに、どれもこれも興味深い映像である。



映画のセリフ

考えさせる会話とシーン

①

要人捜査部の部長 Jay Pettigrew が国務省から受けた指令を伝えている。それに応えているのは捜査官 Tobin Keller である。彼らの会話から、国連は世界の平和と安全に寄与する場、そこで働く職員の意気込みがうかがわれる。

PETTIGREW: No, not the NSA. Whoever she heard. So why don't you let them keep thinking that she can I.D. it?

KELLER: What are you asking me to do?

PETTIGREW: I don't want any harm to come to her. You should get a place where you can keep an eye on her. But we got three days. She's our only link to these guys.

*keep watch over Silvia = keep Silvia under surveillance

*three days until Zuwanie's speech

NSA はささやき声を認識しにくいと言っています。彼女が声を覚えていると思わせておけばよい。

私に何かすることは？彼女に危害がないようにして欲しい。あと3日間だ。彼女は犯人との唯一の接点だからな。

②

アパートに帰ったとき、兄のくれた仮面を着けた男が非常階段で Silvia に手を振る。彼女は恐怖におののく。これを捜査する Keller は Silvia の兄 Simon が事件に係わっているのではと疑うが、Silvia は We 're kepéla. としか答えない。kepéla という言葉はこの映画で設定した仮想のマトボ共和国の方言、クー語である。「君と私は互いに対岸に立っている」という意味である。

KELLER: Could he be involved in this?

SILVIA: We're stuck, aren't we? You and I. We're kepéla. It means "Standing on opposite sides of the river".

KELLER: You've got to give me a reason to get to the other side.

*he = Simon *this = this attempt to assassinate Zuwanie

*Kepéla = Ku word, defined in following Title: Standing on opposite sides of the river.

彼はこの事件に関与しているのか？平行線ね、私たちは。カペラよ。つまり、「川の対岸に立っている」という意味なの。向こう岸に着くには理由がいる。

③

バス爆破事件の後、アパートに帰った Silvia がようやく自分の過去を Keller に話し出す。彼女が国連通訳の道を選んだ理由と健気な決意はどのようなものだったか。Keller にもたれて、Silvia はぐっすりと眠ってしまう。Keller への信頼と安心感からか？ 恐怖からの解放感？ それともただの疲労困憊からか？

SILVIA: Until the color of my skin became a problem. The politics of my skin. I walked away from Africa with nothing. No brother, no family, no lover. Nothing. Just a belief that words...and compassion are the better

way. Even if it's slower than a gun. Where are you going?

KELLER: You've got blood all over your face. You can't say stuff like that with blood on your face.

私の肌の色が問題だったの。肌の色が政治に不都合。私はアフリカを何もかも失くして去ったわ。兄、家族、恋人も。なにもかも失くして。ただ言葉と同情がこの世をよくすると信じて。たとえ銃より遅くてもね。どこへ行くの？君の顔に血がついている。その顔のままそんな話をするな。

④

カメラマンで友人の Philippe の遺書を Keller が Silvia に読んでやる。最初の I'm so sorry. と2度目の I'm so sorry.はどう違うのか？ Keller はなぜ妻のことを引き合いにだしたのか？ Keller と Silvia は失うことの悲しみを共感しただろうか？

"...A young boy shot him. I couldn't tell you because I'm a coward. Simon was brave me. You're brave than me. I'm so sorry"

KELLER: I'm so sorry. The second time was me. I feel like my friends must feel when they try to say something.

SILVIA: It's all right.

KELLER: That's what I say to them. He left this with the note. The only thing...that I wanted...besides having her back...was to be left alone.

ごめんね。二度目はぼくからだ。友達がぼくに悔やみをいう気持ちのような。いいのよ。ぼくもそういう。このカバンに入っていた。ぼくが望んだことは「妻がもう戻らないのなら独りにしてほしい」と。

⑤

Keller が見張っているビルの窓に人影が現れる。彼は Silvia の身に迫る危険を直感して直ちに向かう。犯人を射殺。だが、Silvia はその直前にシャワー室から失踪していた。突然、消えてしまった彼女はいったいどこへ向かったのだろうか？ 彼は今の気持ちを同僚の Dot に吐露する。

KELLER: Drive around the brock.

DOT: You head Jay. I have to take you home.

KELLER: What if there were two guys? Three guys?

DOT: What do we do? Just set the trap and run? They're not our family ...and they're not our friends. You told me that.

KELLER: You lose somebody, you lose somebody. I don't want to lose two

somebodys.

DOT: One circle, then I'm taking you home.

このブロックをまわってくれ。ボスのジェイが言ったのを聞いた。家へ送るわ。もし2人だとしたら？3人だったら？どうします？罾を仕掛けて逃げるだけ？家族でもないし、友人たちでもない。そう言ったじゃない。誰かを失う。また1人。2人も失いたくない。ひと回りして家へ送るわ。

【映画史リテラシー】

●国連シーンは国連史上初のニューヨーク本部での撮影が許可された。同時通訳者のブース、迷路のような回路、国連総会室、等、国連本部の内部がよく分かる。

●言語: 英語 フランス語 スワヒリ語(一部)

●Key Words & Phrases

- ・assassination of foreign leader
- ・speech to the General Assembly
- ・two people communication in person
- ・the United Nations ・the Hague
- ・Human Rights Watch
- ・Secret Service Agents
- ・African dictator named Zuwanie
- ・custom from Matobo
- ・Vengeance is lazy form of grief.
- ・phone calls
- ・eyewitness
- ・diplomacy
- ・NSA ・CIA ・FBI

[映画情報]

製作国:アメリカ 配給:UIP 日本公開 5月21日 <有楽座>他 全国にてロードショー

© 2005 Paramount Pictures/UIP

Cast & Credits

Silvia Broome: Nicole Kidman

Tobin Keller: Sean Penn

Dot Woods: Catherine Keener

Zuwanie: Earl Cameron

Director: Sydney Pollack

Screenplay: Charles Randolph, Scott Frank, Steven Zaillian

5月21日 <有楽座>他 全国にてロードショー

© 2016 m.tsukada. All Rights Reserved.